

第6回まちなかのにぎわい創出円卓会議 資料

まちなかのにぎわい創出の取組について （経過報告及び取組総括）

■平成30年度から図書館等複合施設供用開始までを一定の目途とし、目指すまちなかのにぎわい創出の位置づけに基づき、主に以下の3テーマに沿って計5回にわたり議論してきた。また、うち図書館WGでは3回にわたり図書館等複合施設基本計画案策定に関し施設機能やコンセプトなど意見いただいた。

目指すまちなかのにぎわい創出

まちなかに市内外から人が集まり、集まるだけでなく、様々な形での交流を生み出すことにより、人のにぎわいの連鎖反応が起こり、個人や様々なコミュニティ及び地域経済に活力が生まれている状態

まちなかの「場」= 人々の目的地となる様々な場所・空間
コンテンツ= そこで提供される催事及び歴史的・文化的資源

1 まちなかの有力な「場」（= 公共施設）の魅力向上（施設内のコンテンツ及び施設空間）



図書館等複合施設「まちやま」



体育文化会館



中央公民館



八幡公園



歴史民俗産業資料館別館（予定）

2 にぎわい創出のためのコンテンツの拡充と磨き上げ、民間活力の導入



空き家・空き店舗の活用促進



外部人材の導入



まちなかの資源の発掘

3 まちなかを歩いて回遊する環境づくり

（ソフト：コンテンツ同士を結び付け、エリア内を回遊させる）
（ハード：歩くことを選択する、もしくはせざるを得ない環境整備）



小路の魅力発掘



車両流入規制や歩車共存道路の検討

円卓会議における主な意見



- ここに行けば何かしら楽しみがある、元気を貰えるというイメージが、にぎわいを生み出す。
- 施設として、持続性を持ち活力を失わないために、まちの人に受け入れられ、まちに貢献していくことが重要。
- 鍛冶道場をもっとアピールする必要がある。

第1回円卓会議開催（H30.10月）から現在までの経過



体育文化会館供用開始

供用開始日：令和元年12月1日

利用状況：157,689人（R2）→243,105人（R3）

施設概況：感染症の影響によりイベント開催の中止が相次ぎ、利用者数は伸び悩んでいたが、直近では回復の兆しが見えつつある。



中央公民館 ロビー リニューアル



改修完了：令和3年11月

利用状況：39,664人（R2）→46,532人（R3）

施設概況：リニューアルにより、利用者からは明るく使いやすい等評価をいただいている。1階改修前に2階・3階のロビーに勉強机・wi-fiを設置したこともあり、地元高校生の利用が多く見られるようになった。

八幡公園 リニューアル



供用開始日：令和2年5月31日

施設概況：トイレ改修や芝生張り、遊具改修等を行い、地域住民を巻き込んだ遊具塗りや池の清掃イベントを行った結果、利用状況に顕著に変化が見られ、近隣住民からは親子連れの利用が増えたとの声をいただいた。

今年度の取組



図書館等複合施設「まちやま」供用開始

供用開始日：令和4年7月24日

想定利用者数：約278,000人（令和4年度）

施設概況：指定管理者にこれまでまちなかの中心市街地活性化事業を担ってきた「NPOえんがわ」を含む事業者「ツクール・ド・さんじょう」を選定し、にぎわい創出の拠点として地域を盛り上げる事業を実施する予定。

供用開始から8月末まで、オープン月間として様々なイベントを集中して実施し、市内外に施設をPRしていく。



歴史民俗産業資料館リニューアル（本館・別館）

①本館リニューアル予定：令和5年9月頃

②別館（旧図書館本館施設）供用開始予定：令和6年3月頃

施設概況：令和3年10月に学芸員2人を採用し、現在リニューアル展示内容等について検討している。別館については、名誉市民ギャラリーと文化芸術ギャラリーを設置する予定。

今後に向けた課題と取組の方向性

- 感染症禍により、人々の生活様式が様変わりしたことで、単に公共施設の利用者数が減少しただけではなく、利用方法や利用者の意識にも変化があった。（オンライン併用イベントや人数制限など）
⇒利用者数、利用者層や利用方法についての統計データを収集し、関係者で共有、改善を図る。

■ 三条鍛冶道場のアピール不足

⇒まちやま供用開始を契機に、鍛冶ミュージアムとの連携企画イベントなどを継続的に開催するほか、ミュージアム展示と連動した修学旅行生の利用促進を促し、まち全体の観光振興も兼ねたPRを促進。

2 にぎわい創出のためのコンテンツの拡充と磨き上げ、民間活力の導入 (主な意見及びこれまでの経過)

円卓会議における主な意見



- オフィスや住居として、まちなかの空き家に若い人たちが入居したくなる仕掛けが重要。
- 魅力的な歴史・文化はあるが、三条まつりとか凧合戦など、正しく伝える場が不十分である。

第1回円卓会議開催（H30.10月）から現在までの経過

■ 外部人材の活用／空き家・空き店舗の活用



地域おこし協力隊による学生インターンシップ
サポート施設「日吉舎」の開設



空き店舗を活用した地域おこし
協力隊による空き家活用拠点&
カフェ「BLANC」の開設



空き店舗を活用した地域おこし協力
隊による起業家人材の育成拠点&
ブックカフェ「SANJOPUBLISHING」
の開設



空き店舗を活用した
魅力的な飲食店の出店（SAKUNOYA、らーめん関哲など）



まちなかへの空き家・空き店舗への
出店実績 11件（H30～R3）

まちなかで活躍する新たな人材による
魅力的なコンテンツの更なる増加

若年層の移住・定住促進
にもつなげる

2 にぎわい創出のためのコンテンツの拡充と磨き上げ、民間活力の導入 (今後の取組及び課題)

今年度の取組

■ 既存のコンテンツ（歴史文化）の磨き上げと活用



(ステージえんがわでの展示)

三条まつり実行委員会と市学芸員による三条まつり200周年を契機とした三条まつりの資料展示と収集活動の実施



NPOえんがわによるステージえんがわを拠点とした日常的なイベント開催、空き家改修プロジェクト等



市学芸員による三条凧合戦にフォーカスした歴史民俗産業資料館でのコレクション展の開催

■ 外部人材の活用／ 空き家の活用



総務省が推進する「地域活性化起業人制度」を活用した外部人材「特命空き家仕事人」の派遣による空き家の利活用と解体促進

■ 魅力的なコンテンツ同士の連携



「たたら」をテーマにしたまちやまの鍛冶ミュージアムと三条鍛冶道場との連携イベント開催
(7/24まちやまオープニングイベント予定)

今後に向けた課題と取組の方向性

- 民間活力の導入により、これまで多くの若年層を中心とするまちなかのプレーヤーを生み出してきた。今後は、いよいよ図書館等複合施設供用開始に人の流れが増える見込みの中で、プレーヤー同士を上手く連携させ、継続的かつ効果的ににぎわいを生み出すために、まちなか全体を俯瞰した上でのリデザインをする必要がある。
- ⇒市担当課でまちなか全体をグループし、定期的なプレーヤーへのヒアリングや情報交換の開催等により、より効果的なにぎわい創出を図る。

3 まちなかを歩いて回遊する環境づくり

(主な意見及びこれまでの経過／今後の取組及び課題)

円卓会議における主な意見



- 外から人を呼び込むには、目の前にある北三条駅を含めた公共交通の仕組みづくりが重要である。弥彦を含めた観光ルートや、市立大学・看護学校の学生の呼び込みも期待する。
- 弥彦線高架下は東三条まで繋がっており、雨に濡れないため、体育文化会館や図書館からの導線として活用できる。この導線も公共交通を考える際に考慮すると良い。

第1回円卓会議開催 (H30.10月) から現在までの経過

- 小路の魅力発掘事業として八幡町で地域住民が花のプランター整備



- 八幡公園と弥彦線高架下との境目の柵を撤去し、歩行者が公園に立ち寄り休憩し歩きやすくなるよう工夫
(※地図上緑色マーカー部分)

今年度の取組



- 歩きたくなる道の整備として地域おこし協力隊を中心に商店街各所に手作りベンチ設置

- まちなかのパークアンドウォークの拠点として図書館等複合施設の北側駐車場(80台)を夜間も開放

- イベント時における図書館等複合施設周辺の車両流入規制実施
(※地図上黄色マーカー部分)



今後に向けた課題と取組の方向性

- 図書館等複合施設供用開始後のまちなかの人の流れ(特に北三条駅や図書館等複合施設及び体育文化会館駐車場からの導線、利用状況等)について定量的にデータを収集・把握し、より効果的な公共交通の在り方を目指し今後も継続して見直し・運用していく必要がある。

今のまちなかは、当初目指したまちなかのにぎわいの姿になっているか？



人材活用や拠点施設の建設、既存施設のリニューアル等のこれまでの取組により、まちなかにおいて様々な「にぎわいを生み出す種まき」は実施してきたが、それらは偏在的であって遍在的ではなかった。そのため、まちなか全体のにぎわいの連鎖が発生している状況には至っていない。

- ◆ 日常におけるまちなかの商店街の人通りは未だ明らかに少ない。
- ◆ まちなかの寺や小路などの地域資源、まちの歴史・文化の掘り起こしと有効活用が十分ではない。

これからのまちなかのにぎわい創出に必要なこと（総括）

地域おこし協力隊やNPOえんがわなど、限定的な人材が発信し取り組むだけではまちなか全体のにぎわい創出には自ずと限界がある。そのため、市民一人一人が当事者意識を共有するための意識形成がより重要でありかつ求められる。

人材育成及び人材活用の継続、市民のコンセンサス等、目指すまちなかのにぎわい創出のビジョンの実現には課題も多いが、そのために市としてどのような取組ができるのか、引続き検討していく必要がある。